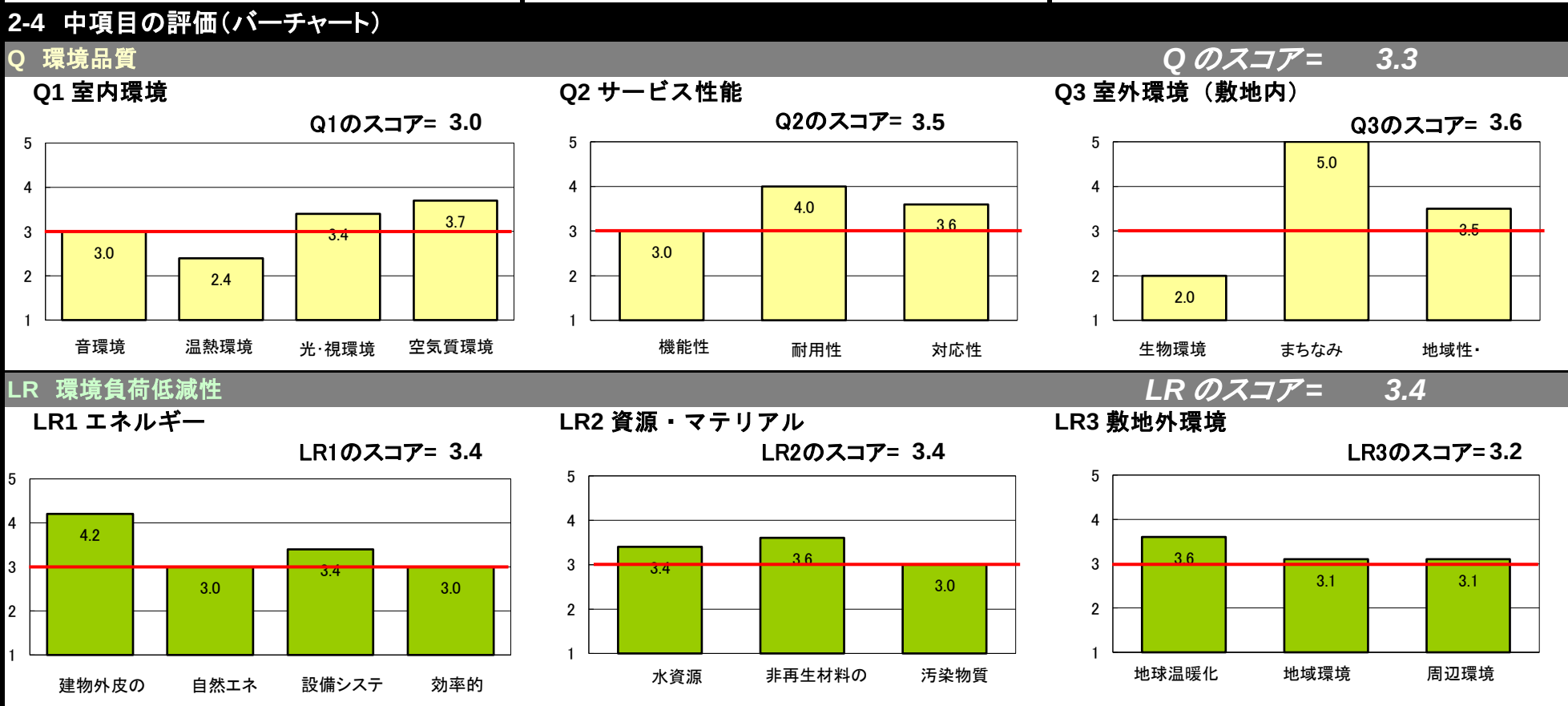
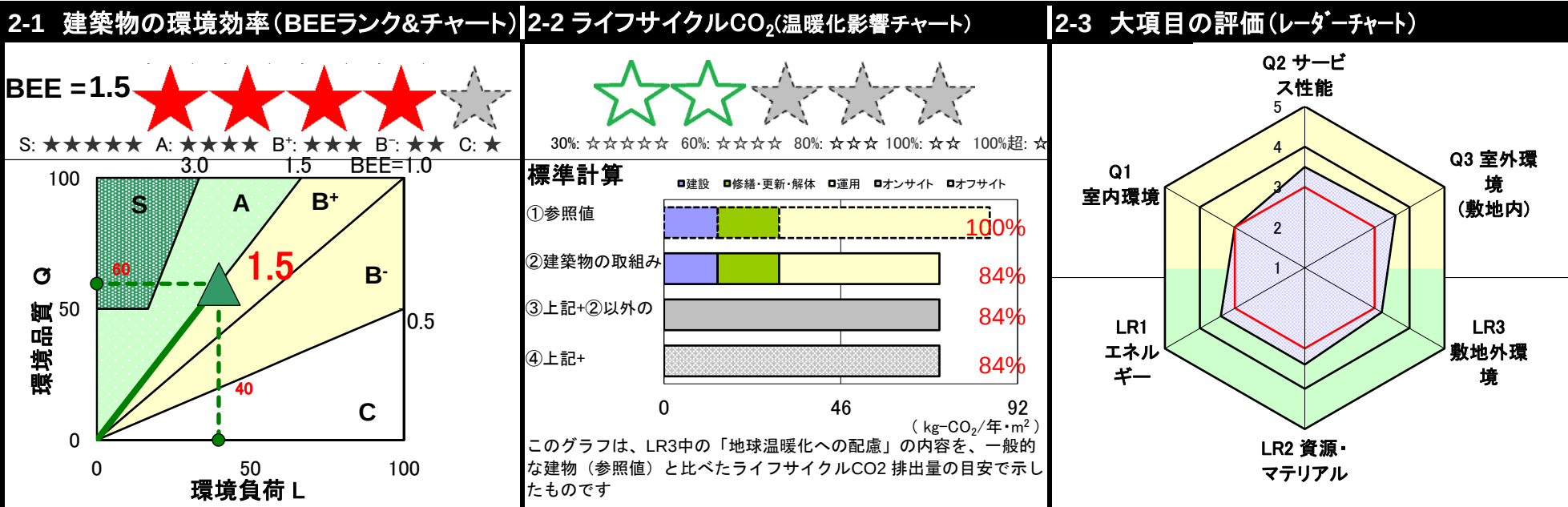


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	岡崎警察署庁舎	階数	地上5F
建設地	(仮換地)岡崎駅南土地区画整理事業	構造	S造
用途地域	第2種住居地域、法22条区域	平均居住人員	281 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年9月 予定	評価の実施日	2021年11月11日
敷地面積	8,500 m ²	作成者	岩月 亮士
建築面積	1,839 m ²	確認日	2021年11月11日
延床面積	7,582 m ²	確認者	鈴木 雄一郎



3 重点項目	
①地球温暖化への配慮	③敷地内の緑化
3.6	2.0
②資源の有効活用	④地域材の活用
3.7	4.0
	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)
	10.7 %
	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)
	0.0 %
	<外装材に使用した地域性のある材料>
	県産木材(外部庇軒裏)
	<建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材>
	県産木材(内部天井ルーバー)

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮

LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用

Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性

LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化

Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$



スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部・居住・宿泊部分							全体	
配慮項目		独自基準	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	全体		
		重点項目										
Q 建築物の環境品質										3.3		
Q1 室内環境						0.40			-	3.0		
1 音環境				0.1	3.0	0.15	-	-	-	3.0		
1.1 室内騒音レベル				3.0	3.0	0.40	-	3.0	-			
1.2 遮音				0.4	3.0	0.40	-	-	-			
1		開口部遮音性能		-	3.0	0.60	-	3.0	-			
2		界壁遮音性能		-	3.0	0.40	-	3.0	-			
3		界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	3.0	-	-	3.0	-			
4		界床遮音性能(重量衝撃源)		-	3.0	-	-	3.0	-			
1.3 吸音				-	3.0	0.20	-	3.0	-			
2 温熱環境				0.3	2.4	0.35	-	-	-	2.4		
2.1 室温制御				0.5	3.0	0.50	-	-	-			
1		室温		3.0	3.0	0.38	-	3.0	-			
2		外皮性能		3.0	3.0	0.25	-	3.0	-			
3		ゾーン別制御性		3.0	3.0	0.38	-	-	-			
2.2 湿度制御				3.0	3.0	0.20	-	3.0	-			
2.3 空調方式				3.0	1.0	0.30	-	3.0	-			
3 光・視環境				0.2	3.4	0.25	-	-	-	3.4		
3.1 屋光利用				0.3	3.0	0.30	-	-	-			
1		屋光率	屋光率: 1.507	3.0	3.0	0.60	-	5.0	-			
2		方位別開口		-	-	-	-	3.0	-			
3		屋光利用設備		3.0	3.0	0.40	-	3.0	-			
3.2 グレア対策				0.3	4.0	0.30	-	-	-			
1		屋光制御	ブラインド及び庇にて制御	5.0	4.0	1.00	-	3.0	-			
3.3 照度			全般照明方式で照度が600LX以上	3.0	4.0	0.15	-	3.0	-			
3.4 照明制御				3.0	3.0	0.25	-	3.0	-			
4 空気質環境				0.2	3.7	0.25	-	-	-	3.7		
4.1 発生源対策				0.5	4.0	0.50	-	-	-			
1		化学汚染物質	F☆☆☆☆の建材使用	3.0	4.0	1.00	-	4.0	-			
4.2 換気				0.3	3.0	0.30	-	-	-			
1		換気量		3.0	3.0	0.33	-	3.0	-			
2		自然換気性能		3.0	3.0	0.33	-	1.0	-			
3		取り入れ外気への配慮		3.0	3.0	0.33	-	3.0	-			
4.3 運用管理				0.2	4.0	0.20	-	-	-			
1		CO ₂ の監視		3.0	3.0	0.50	-	-	-			
2		喫煙の制御	建物内禁煙	3.0	5.0	0.50	-	-	-			
Q2 サービス性能					-	0.30		-	-	3.5		
1 機能性				0.4	3.0	0.40	-	-	-	3.0		
1.1 機能性・使いやすさ				0.4	2.6	0.40	-	-	-			
1		広さ・収納性		3.0	1.0	0.33	-	3.0	-			
2		高度情報通信設備対応	複数通信事業者の回線が引込可能である	3.0	4.0	0.33	-	3.0	-			
3		バリアフリー計画	独自 県条例を準拠	3.0	3.0	0.33	-	-	-			
1.2 心理性・快適性				0.3	3.0	0.30	-	-	-			
1		広さ感・景観 (天井高)	天井高さ: 2.6m	3.0	3.0	0.33	-	4.0	-			
2		リフレッシュスペース		3.0	2.0	0.33	-	-	-			
3		内装計画	CGパースによる内装計画の実施	3.0	4.0	0.33	-	-	-			
1.3 維持管理				0.3	3.5	0.30	-	-	-			
1		維持管理に配慮した設計	勾配による害鳥対策及び金属にメッキ処理等	3.0	4.0	0.50	-	-	-			
2		維持管理用機能の確保			3.0	0.50	-	-	-			
2 耐用性・信頼性				0.3	4.0	0.31	-	-	-	4.0		
2.1 耐震・免震・制震・制振				0.4	4.6	0.48	-	-	-			
1		耐震性(建物のこわれにくさ)	重要度係数1.5	3.0	5.0	0.80	-	-	-			
2		免震・制震・制振性能		3.0	3.0	0.20	-	-	-			
2.2 部品・部材の耐用年数				0.3	3.1	0.33	-	-	-			
1		躯体材料の耐用年数	②	-	3.0	0.23	-	-	-			
2		外壁仕上げ材の補修必要間隔		-	2.0	0.23	-	-	-			
3		主要内装仕上げ材の更新必要間隔		-	3.0	0.09	-	-	-			
4		空調換気ダクトの更新必要間隔	浴室、ユニットシャワーの排気系統にステンレスダクトを採用	-	4.0	0.08	-	-	-			
5		空調・給排水配管の更新必要間隔	給水: VLP、排水: VP	-	5.0	0.15	-	-	-			
6		主要設備機器の更新必要間隔		-	3.0	0.23	-	-	-			
2.4 信頼性				0.1	4.2	0.19	-	-	-			
1		空調・換気設備	② 熱源に電気・ガスを利用、耐震クラスAにて計画	3.0	4.0	0.20	-	-	-			
2		給排水・衛生設備	節水型器具を採用、汚水一時貯留槽設置、受水槽に蛇口を設置	3.0	4.0	0.20	-	-	-			
3		電気設備	非常用発電設置、地下に電源設備なし	3.0	4.0	0.20	-	-	-			
4		機械・配管支持方法	耐震クラスA	3.0	4.0	0.20	-	-	-			
5		通信・情報設備	通信手段の多様化を図っている。通信の2引込みが可能。	3.0	5.0	0.20	-	-	-			

3 対応性・更新性					0.2	3.6	0.29					3.6	
3.1 空間のゆとり			②	階高:4.15m 壁長さ比率:0.14 配管保護されており、仕上材を傷めず配線の更新が可能 配管保護されており、仕上材を傷めず配線の更新が可能	0.3	4.6	0.31						
1 階高のゆとり		-			5.0	0.60		4.0	-				
2 空間の形状・自由さ		3.0			4.0	0.40		3.0	-				
3.2 荷重のゆとり					3.0	3.0	0.31		3.0	-			
3.3 設備の更新性					0.3	3.4	0.38						
1 空調配管の更新性		-			3.0	0.17							
2 給排水管の更新性		3.0			3.0	0.17							
3 電気配線の更新性		3.0			5.0	0.11							
4 通信配線の更新性		3.0			5.0	0.11							
5 設備機器の更新性		3.0			3.0	0.22							
6 バックアップスペースの確保		3.0			3.0	0.22							
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.30			-	-	3.6		
1 生物環境の保全と創出			独自③		-	2.0	0.30			-	2.0		
2 まちなみ・景観への配慮			独自④	底に県産材木材を使用		-	5.0	0.40		-	5.0		
3 地域性・アメニティへの配慮					0.3	3.5	0.30			-	3.5		
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④	岡崎城や八丁蔵通り、藤川宿などの色彩(無彩色系)を踏襲		-	4.0	0.50			-			
3.2 敷地内温熱環境の向上					-	3.0	0.50			-			
LR 建築物の環境負荷低減性							-				3.4		
LR1 エネルギー						-	0.40			-	3.4		
1 建物外皮の熱負荷抑制				BPI=0.88	3.0	4.2	0.30			-	4.2		
2 自然エネルギー利用					3.0	3.0	0.20			-	3.0		
3 設備システムの高効率化				BEI=0.76	3.0	3.4	0.30			-	3.4		
4 効率的運用					0.2	3.0	0.20			-	3.0		
集合住宅以外の評価				1.0	3.0	1.00			-	-			
4.1 モニタリング				3.0	3.0	0.50			-	-			
4.2 運用管理体制				3.0	3.0	0.50			-	-			
集合住宅の評価				-	-	-			-	-			
4.1 モニタリング				-	3.0	-			-	-			
4.2 運用管理体制				-	3.0	-			-	-			
LR2 資源・マテリアル						-	0.30			-	-	3.4	
1 水資源保護						0.1	3.4	0.15			-	3.4	
1.1 節水				3.0	4.0	0.40			-	-			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				0.6	3.0	0.60			-	-			
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.67			-	-			
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.33			-	-			
2 非再生性資源の使用量削減					0.6	3.6	0.63			-	3.6		
2.1 材料使用量の削減		② 独自	-	-	2.0	0.07			-	-			
2.2 既存建築躯体等の継続使用				-	3.0	0.24			-	-			
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				-	3.0	0.20			-	-			
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				3.0	4.0	0.20			-	-			
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	3.0	0.05			-	-			
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み				3.0	5.0	0.24			-	-			
3 汚染物質含有材料の使用回避					0.2	3.0	0.22			-	3.0		
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	3.0	0.32			-	-			
3.2 フロン・ハロンの回避				0.6	3.0	0.68			-	-			
1 消火剤				-	-	-			-	-			
2 発泡剤(断熱材等)				-	3.0	0.50			-	-			
3 冷媒				3.0	3.0	0.50			-	-			
LR3 敷地外環境						-	0.30			-	-	3.2	
1 地球温暖化への配慮			①		-	3.6	0.33			-	3.6		
2 地域環境への配慮					0.3	3.1	0.33			-	3.1		
2.1 大気汚染防止				-	3.0	0.25			-	-			
2.2 温熱環境悪化の改善				-	3.0	0.50			-	-			
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	3.5	0.25			-	-			
1 雨水排水負荷低減				独自	-	3.0	0.25			-	-		
2 汚水処理負荷抑制					-	3.0	0.25			-	-		
3 交通負荷抑制				独自	-	5.0	0.25			-	-		
4 廃棄物処理負荷抑制					-	3.0	0.25			-	-		
3 周辺環境への配慮						0.3	3.1	0.33			-	3.1	
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40			-	-			
1 騒音				独自	-	3.0	1.00			-	-		
2 振動				独自	-	-	-			-	-		
3 悪臭				-	-	-			-	-			
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				0.4	3.0	0.40			-	-			
1 風害の抑制				-	3.0	0.70			-	-			
2 砂塵の抑制				-	3.0	-			-	-			
3 日照障害の抑制				-	3.0	0.30			-	-			
3.3 光害の抑制				0.2	3.7	0.20			-	-			
1 屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策					-	4.0	0.70			-	-		
2 昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策					-	3.0	0.30			-	-		

重点項目スコアシート

岡崎警察署庁舎

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点		全体に対する 重み係数	重点項目スコア	
① 地球温暖化対策					3.6	
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.6	0.10			
② 資源の有効活用					3.7	
Q2-2	耐震性・信頼性	4.0	0.09			
Q2-3	対応性・更新性	3.6	0.09			
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.6	0.19			
③ 敷地内の緑化					2.0	
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	外構緑化:10.7%/建物緑化:0%		
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		4.0		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	2.0	－	県産木材(外部庇軒裏)		
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	1.0	－	県産木材(内部天井ルーバー)		

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア=重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 岡崎警察署庁舎

計画上の配慮事項	
総合	①大規模災害でも警察機能を維持継続し、地域の安全を守る防災機能拠点となる警察署 ②将来を見据え警察機能をノンストップで支え続ける、フレキシブルな新モデル警察署 ③岡崎の安全安心の絶対的な象徴として、敷地内のあらゆる人・物・情報を確実に守る警察署
Q1 室内環境	・深い軒の出を用いた日射制御 ・各諸室のグレードに応じて適切な仕上の採用 ・内装仕上にF☆☆☆☆を全面的に採用 ・建物内禁煙
Q2 サービス性能	・メンテナンスしやすいバルコニー・屋上設備スペース ・重要度係数I=1.5 ・熱源に電気／ガスを採用、重要室は非常用発電機により災害時対応 ・緊急用汚水槽設置 ・受変電設備・自家発電機を屋上に設置、通信関係室を5階に設置
Q3 室外環境(敷地内)	・段・傾斜路が無く、滑りにくく平坦な表面仕上 ・エントランスに大きな庇を計画
LR1 エネルギー	・深い軒の出を用いた日射制御 ・開口部に複層ガラスの採用 ・高効率機器の採用 ・節水型衛生器具、擬音装置の採用
LR2 資源・マテリアル	・躯体と内装仕上げの分離が容易、OAフロアの採用 ・F☆☆☆☆の建材使用
LR3 敷地外環境	・十分な駐車場 ・敷地外への騒音・振動の配慮
その他	特になし